

利用者に学び自己研鑽に励みます
～さつき福祉会 全体研修報告～

令和4年度全体研修/虐待防止研修

〈叱る依存〉がとまらない

～誰もが生きやすい社会を目指して～

講演：村中 直人 氏

講師紹介

- 村中直人さん
- (臨床心理士・公認心理士)
- 発達障害学習支援サポーター's スクール事業責任者
- おもな著作
- 「ニューロダイバーシティの教科書」
- 「ラーニングダイバーシティの夜明け」
- 「〈叱る依存〉がとまらない」

村中直人

Muranaka Naoto



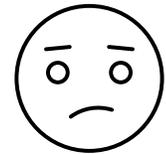
〈叱る依存〉が
とまらない

令和4年度さつき福社会全体研修は、「虐待防止研修」として〈叱る依存〉がとまらないの著者である、村中直人さんをお招きして、「叱る」について科学的なデータやその効果と限界、依存症との類似点についてわかりやすく教えていただきました。「障害の有無にかかわらず、だれもが生きやすい社会とは」についてより深く学ぶ機会となりました。

講演の様子



- 厳しく叱ることは愛情の裏返し
- 私は叱られて強くなれた
- 厳しく叱らないから慣れてしまう
- 叱らないと伝わらない
- 危ないことをしたら叱らないと



叱るとは？
叱られ続けるとどうなるの？
叱るを手放すには？
利用者・職員・すべての人は自らの意思で冒険できるはず！



～研修アンケートより～

今回の研修は、支援の現場、私生活の中でも身近で難しい「叱る」をテーマに選びました。職員それぞれの考え方や歩んできた人生が違うように、「叱る」についての考え方も様々です。より良い利用者支援を目指して、「叱る」についての共通の知識を学ぶ必要があると感じ、村中先生に講演を依頼しました。今回の学びを基に、法人全体の利用者支援のスキルアップにつなげたいと考えています。

- 村中先生の研修で多くの学びを得ることが出来ました。叱り方についてこれまで、よく悩むことがありましたが、今回の研修で叱るって本当に相手の為になっているのか、叱る依存を手放す前さばきや予測力などについて学ぶことで、これまでの支援や子育てに反省ばかりが思い出されました。今回この研修での学びの中で予測力を鍛えることを意識してみようを決意しました。また、自己決定をうばわないよう！取り組もうと思いました。
- いろいろと勉強出来ました。叱り続けるのではなく、上手に叱り終わるのが大事。冒険モードが大事（自己決定）
- 「叱る依存」初めて聞いた言葉でしたが、今回の研修で学び、知ることが出来てよかったです。
- 耳が痛い内容であった。気づいたら怒っていた。自分に反省
- 私たち支援員は利用者さんのあるべき理想を想定して、支援計画を立て、それに沿って日々の支援を行っていますが、支援員が描く理想と利用者さん自身の思いにズレがないか、支援員の自己満足になっていないかを振り返るための良い機会になりました。上手くいかない時にはそもそもそのやり方を疑うという発想はとても参考になりました。
- 村中さんの声がとても聴きやすく、お話の組み立てもわかりやすく2時間があったという間ででした。学生時代に楽しい授業を知らなかったのも、村中さんが先生だと勉強が好きになれたかもしれませぬ！「叱る」ことについてのメカニズムや感情面でない原因に気づけたようで心に残る時間でした。ABEMATV見ます！前さばきが自分の生活に取り入れられるように頑張りたいです。